

令和4年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



佐世保市立相浦西小学校大崎分校

『みんなが楽しい学校』

- (1) 子どもたちにとって楽しい学校
- (2) 保護者・地域にとって開かれた学校
- (3) 職員にとって信頼される学校

所在地 佐世保市大湊町467番地
校長 岩田 美輝
児童数 53名 (学級数 5)



1 目的

- (1) 地域の特色を生かした体験活動を通して、大崎地区への関心・理解を深め、豊かな情操の育成と心の教育の充実を図る。
- (2) 本校（相浦西小学校）を始め他校との交流や地域等との交流活動をより多く取り入れることにより、自己表現力やコミュニケーション能力を高める。
- (3) 一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を通して、すべての児童に分かる授業を展開し、基礎基本の定着を図るとともに、学習習慣の確立をめざす。

2 主な実践内容

(1) 心の教育の充実を図る活動

①稚魚放流

水産センターより、オコゼの稚魚を分けていただき、全校児童で放流をした。この活動は、大崎分校の伝統行事で、児童が海に親しみ、魚とふれあう貴重な機会であり、保護者や地域の方との交流の場でもある。また、低学年は『命の尊さ』や『命を育むこと』を実感し、『いのちを見つめる強調月間』の取組の一つとなっている。高学年は、総合的な学習の時間と結びつけ、「おおさき」への関心・理解を深め、主体的・協働的な学習ともなった。



②スクールコンサート

プロ音楽家によるスクールコンサートを毎年行っている。今年も、3密を避ける等のコロナウイルス感染症予防対策を行って、保護者や地域、大崎保育園の園児を招待して開催することができた。プロの本物の音楽に触れることができることとともに、児童が参加できる企画もあり、楽しい時間を過ごすことができた。児童の情操を育てるためのよい機会となっている。



③読み語り

毎月1回、火曜日の朝の読書タイムに地域の人からなる図書ボランティア「たんぼぼの会」の方々に来ていただき、全校児童対象に読み語りをしていただいた。今年度は3密を避けるために、毎月学年を決めて読み語りをしていただいた。そのことで、児童の年齢に合ったお話を選んでいただき、児童は集中して物語の世界に浸っていた。また、いのちを見つめる強調月間や季節にちなんだ本の紹介もあり、児童の心の教育に貢献していただいた。



(2) 自己表現力を高める活動

①本校（相浦西小学校）との交流

今年度は、2年生が本校児童と一緒におもちゃ祭りを行った。1年生は、市民霊園広場にて一緒に秋探しを行った。3・4年生は、校外学習を一緒に行った。たくさんの仲間と交流することでコミュニケーション能力や表現力の育成の場となった。本校との交流をさらに意義あるものにし、大人数の中でも分校児童の主体性を発揮できるように、取組内容やリモートを活用しながら交流する方法について考えていきたい。



②他の学校や事業所との交流

今年度は、黒島小中学校児童と高学年児童が修学旅行を通して交流を深めた。事前学習では、Meetを用いてのリモート会議を行い、活動計画を立てることができた。事前の交流のおかげで、修学旅行本番でもすぐに仲良くなり活動を楽しむことができた。また活動後も、リモート会議にて互いの学校のよさを報告し合うなどの活動につなげることができた。



大崎保育園とは、運動会で太鼓の演奏を披露してもらったり、保育園から勤労感謝の日に合わせてプレゼントをいただいたりして互いの交流ができた。また、年長園児を分校に迎え、小学校生活についての説明をするなどして交流を深めることができた。

今年度は新たな取組として、高学年のキャリア教育の一環として、保育園を含む地域の事業所や長崎短期大学との交流を行った。仕事を少し体験させていただいたりインタビューをしたりして、仕事や将来のことへの理解と意識を高めるよい機会となった。

③植物栽培と縦割り班活動

今年度は、年2回行っていた栽培活動を年1回に変更した。その分、縦割り班活動（ふれあい遊び）を充実させるようにした。

栽培活動では、お別れ式に向けて、秋からチューリップ等の花を育てた。土作りから始め、花の苗植えから水やりまでを、縦割り班で班長を中心に継続的に活動した。



縦割り班活動では、ふれあい遊びにおいて、高学年が計画を行い、縦割り班同士で競い合ったりみんなで協力したりするなどの遊びを行うことができた。また、縦割り掃除においても、高学年が役割や掃除の仕方を低学年に指示し、みんなが協力して掃除に取り組む伝統が引き継がれている。



高学年にとっては、自分の班の活動のために、事前の準備から伝え方まで考えて行動する経験を積むことができ、主体性を養うよい機会となった。低学年にとっては異学年の中での自分の役割を感じながら行動するよい経験となった。また花を育てることで、命の大切さを感じることができた。継続して行ってきたことが、体育発表会など各種行事での児童の主体的な姿へとつながっていると感じる。

(3) 基礎基本の定着と学習習慣の確立を目指す活動

① 学びタイムの設定

今年度から、朝の時間に週2回の学びタイムを設定した。漢字や計算、辞書の引き方などの基礎基本の徹底を図る時間と、「山口っ子プリント」を用いた活用力の向上を図る時間を設け、計画的に取り組むことができた。学年独自に取り組む時間も取り入れ、新聞を用いたNIEに取り組んだり発展問題に取り組んだり、学年の実態に応じた取組ができた。



② 学力調査・学力テストの活用

5月の全国学力状況調査や県や市の学力調査の結果を考察し、大崎分校児童の学力の状況を把握した。そこで、毎時間の授業の中で共通して行うべきことを教師が共通理解し実践することができた。12月の学力テストにおいては、これまでの取組の成果を客観的に把握することができた。これらの結果をもとに、さらに分析を行い、来年度に向けて学力向上の取組の方向性を職員で確認し、継続して取り組む体制を整えた。今年度は、昨年度と比べて国語の力が向上したが、まだ全国平均に届いていない学年が多い。今後、思考力や表現力等の学力を伸ばしていくために必要なことを共通理解し、授業改善や学力向上に継続して取り組んでいきたい。

③ 学校保健委員会との連携

家庭での生活のリズムを整えるため、学校保健委員会と連携し「さわやかさんカード」を作成し、基本的な生活習慣と家庭学習の振り返りを年3回行った。保護者の協力もあり、歯磨きや早寝早起きの習慣は身に付きつつある。今後は、家庭学習の習慣をつけるため、学年に応じた「家庭学習の手引き」を見直し、保護者にも呼び掛けて自主的な学習の取組が定着するようにしたい。

3 まとめ

今年度は、新型コロナウイルスの影響もありながら、新たな交流や取組を実施することができた。そのことによって、心の教育の充実や学力向上に関して、一定の成果を得ることができた。今後の更なる交流の充実や学力の向上を図るためには、職員間での共通理解を伴った継続的な指導や、他校や事業所、家庭や地域との更なる連携が必要である。来年度のコミュニティ・スクール発足を機会として、充実した取組を展開していきたい。